

ふるさと「阿南市」のすばらしい魅力を再発見!

～地域の輝き～ 第126回



福井町ふるさと人権フェスティバル

「人権を大切にし、共に助け合うふるさと福井」をテーマに、「福井町ふるさと人権フェスティバル」が毎年10月下旬に福井町総合センターで開催されている。町民が集い、人権について一緒に考え交流する催しで、毎回多数の人でにぎわい、昨年の開催で18回目を迎えた。

当日は、町内の保育所、小・中学校、教育集会所、婦人会などの各種団体が参加し、趣向を凝らした催しで、来場者に楽しんでもらいながら人権について考えていただく。福井中学校人権劇の上演をはじめ、小学校児童による地元特産の竹太鼓の演舞、保育所園児の手話を交えた歌、福井歌おう会の合唱など、人権尊重の思いやハーモニーが心に響いてくる。町外からも、福祉施設の手作りのパンやクッキーが出店され、「友達くらぶ」の車椅子ダンスが披露されるなど、交流の輪が広がっている。



ついて知り学ぶことが、全ての人権問題解決につながる」との思いから始まった。教育集会所で泊まり、人権について学び語りあった。この取組を町内全体に広げていこうと、教育集会所で町あげでのフェスティバル開催となった。実行委員会を組織し、準備から運営、片付けまで町民が協力して行った。特に、人権標語をつるした提灯を、教育集会所から福井公民館までの道沿いに飾った。提灯の明かりは、まちの夜を照らし、人権問題解決への希望の灯火のようだった。駐車場の確保や多機能トイレの必要があり、会場は福井町総合センターに移ったが、開催当初の熱い思いは毎回受け継がれている。

ファイナレを飾る阿波踊りでは、踊りの連の中へ、子どもから大人までが踊り込み、みんなで輪になって踊る。そこには、「人間はみんな一緒だ。町民一体となろうよ」とのメッセージが込められているようだ。町民の抛り所となつている福井町ふるさと人権フェスティバル。人々の心の人権尊重という花を咲かせ続けている。